

研修だより

矢島小学校

6

04.6.2

小学校で確かな学力と豊かな心を育てる評価 その2

4. 各種評価のねらい

事前	診断的評価	これまでの学習や生活の経験、知識や技能の程度、興味・関心の有無、子供を取り巻く環境などについて事前把握し、授業に生かす。
事中	形成的評価	単元の展開過程においてきめ細かい評価を行い、それに基づいて授業改善を図る。 学習目標をできるだけ具体化、明確化することが不可欠。
事後	総括的評価	評価結果を、次の単元、学期、学年で有効に生かす。

どれも大切な評価であるが、本校では、特に、形成的評価を重視する。

5. 形成的評価の具体的実践例から - 高学年算数 -

練習問題で理解度を評価する。 「2問目ができたら、持ってきたさい。」

頭でわかるのと、実際にできるのは違う。早い段階でつまずき発見する
誤答を指導に生かす。 「誤答を消さない」

こどものつまずきはどこか、誤答をみればすぐに分かる。

自分のつまずきはどなか子供自身が分かること（自己評価）で、学習効果が上がる
ノートは毎時間評価する。 「指2本分空ける」「ミニ定規で線を引く」

ノートが乱雑な子は、計算ミス、うっかりミスをしやすい。

授業後の「ふりかえり」で、今日の授業の理解度を「自己評価」する。

・主として「今日分かったこと・できるようになったこと」を書く

・友達の意見を聞いて分かったこと等（相互評価）を書く場でもある。

6. 豊かな心を育てる評価 ~ 授業で、日常生活の中で心がけていること ~

肯定的・受容的な評価

ほめる。ほめてのばす。心の教育の評価目標は道徳の指導内容と重なる

学習過程における評価、個人内評価、子供の自己評価・相互評価

< 1の回答 = 教師が、自分の授業改善のために行う。 >